

日本語の文の目的を表す形式名詞「ように」と「ために」の分析

(統語論と意味論から一考察)

リストウアユ・ヒタ・マルサ

0642004



マラナタキリスト教大学

文学部日本語学科

バンドン

2013

序論

インドネシアの外国語学習者が関心のある言語の一つは日本語である。日本語の中の色々な構文や表現の中で、筆者が興味を持つ分野は日本語の話し手によく使われる目的を表す形式名詞「ように」と「ために」である。インドネシア語ではどちらも同じ意味で目的を表す表現であるが、日本語で実は違う意味を持つ。いつ「ように」を^{つか}、使うのか、いつ「ために」を使うのか、これは外国語の学習者にもおそらく難しいであろう。

「ように」の前に使える動詞は意志動詞であるが、「ために」の前に使える動詞は「ように」の逆に無意志動詞である。このことが文の意味にどのように影響するのか、そして二つの形式名詞がそれぞれに切り替えられるのかを、この論文で研究する。

本論

寺田 (1984:50) によると、形式名詞は名詞の一部でありながら、自立語ではなく付属語だと理解できるという。つまり、形式名詞はほかの言葉に付随しなければならないと、意味を持たない。「ように」は目的を表す形式名詞の一つである。目的を表す「ように」は状態性の動詞、例えば、可能動詞や無意志動詞に接続して、「そのことを願って」という意味合いを含む。例文1：「鉛筆の跡や、消しゴムのくずが残らないように、きれいに消してください」。この例文1に二つの節がある。(a) 節は「鉛筆の後や、消しゴムのくずが残らない」と、(b) 節「きれいに消してくだ

さい」である。この文には (a) 節の可能動詞の後に、形式名詞「ように」が付いている。その形式名詞の役は (a) 節と (b) 節を接続し、「(a) 節の活動は (b) 節の目的」という意味を表現します。

次は「ために」のことを説明する。市川 (1997: 408) によると、「ために」と「ように」の違いはその後についてくる動詞である。「ために」に付いてる動詞は「ように」と違って、話し手の意志を表す動詞がくる。例文 2 : 「ソラは今、記憶を取り戻すために眠っているわ」。この例文 2 にも二つの節がある。(a) 節は「ソラは今、記憶を取り戻す」と、(b) 節「眠っている」である。(a) 節の後には形式名詞「ために」が付いていて、このことは、(b) 節「眠っている」の目的を表すためである。例文 1 は「ように」の前の動詞「残らない」というのは無意志動詞だが、例文 2 の「ために」の前に使われる動詞「取り戻す」というのは意志動詞である。そのせいで、例文 1 は具体的に「節 (a) にある状態を求めている」の意味合いを持つ。そして例文 2 は例文 1 と少し違って「節 (a) にある状態を求めているから、節 (b) にある行動をする」という意味合いがする。

次はこの論文で二つの意味合いを知るために、そして二つの形式名詞がそれぞれに切り替えられるのかを証明するために、「ように」の形式名詞がある例文に「ために」を入れ替えて、「ために」がある例文には「ように」を入れ替える。たとえば、例文 1 にある「ように」を「ために」に入れ替えると、「鉛筆の跡や、消しゴムのくずが残らないために、

きれいに消してください」になった。上記のように、文法的にその例文は正しくなくなった。なぜなら、「ために」の前に置ける動詞は無意志動詞ではなければならないのに、「残らない」は意志動詞である。意味的にも、その例文の節 (b) が「節 (a) を求めるから行動する」ということを表していないから、そこで「ように」を使うしか正しくない。

結論

形式名詞「ように」と「ために」がついてる例文の分析をみて、筆者が二つの結論に着く。一つは「ように」と「ために」はそれぞれ切り替えられない。そして二つは「ように」のある文に「節 (a) にある状態を求めている」の意味合いが持ちながら、「ために」は少し違って「節 (a) にある状態を求めているから、節 (b) にある行動をする」という意味合いがする。

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	vii
DAFTAR TABEL	ix
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang	1
1.2 Rumusan Masalah	7
1.3 Tujuan Penelitian	7
1.4 Metode dan Teknik Penelitian	7
1.5 Organisasi Penulisan	9
BAB II KAJIAN TEORI	10
2.1 Sintaksis	10
2.2 Semantik	14
2.3 形式名詞 (<i>Keishiki Meishi</i>)	16
2.3.1 ように (<i>You ni</i>)	17
2.3.2 ために (<i>Tame ni</i>)	20
BAB III ANALISIS PENGGUNAAN <i>KEISHIKI MEISHI YOU NI</i> DAN <i>TAME NI</i> YANG MENYATAKAN TUJUAN DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG	25
3.1 ように (<i>You ni</i>)	26
3.2 ために (<i>Tame ni</i>)	39
BAB IV KESIMPULAN	56
DAFTAR PUSTAKA	58
LAMPIRAN	x
SINOPSIS	xxi

RIWAYAT HIDUP	xxv
----------------------------	------------

DAFTAR TABEL

Tabel 3.1	55
Tabel 4.1	57